

新規就農先輩の軌跡 No.116

<p>新規就農者の素顔</p>	<p>農業経営の状況（現在）</p>
<div data-bbox="305 270 669 709" data-label="Image"> </div> <p>氏名：横田 了識  <small>よこた さとし</small></p> <p>住所：南あわじ市広田          年齢：47</p>	<p>農地：100a（借地100 a）          経営内容：ブロッコリー100 a、たまねぎ20 a、          レタス 30a</p> <p>労働力：本人          出荷先：青果業者</p> <div data-bbox="834 501 1325 865" data-label="Image"> </div> <p>収穫期を迎えたブロッコリー</p>
<p>就農から現在まで</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p>
<p>平成 25 年 9 月 民間企業退職          平成 26 年 1 月～ あわじ島かわいファームにて研修          平成 26 年 5 月 就農          平成 28 年 規模拡大          現在に至る</p>	<p>○良かった点          野菜栽培は手間暇かけた分、その答えが自分自身の売り上げとなることにやりがいを感じている。</p> <p>○苦労した点          労力が1名のみであるため、収益は高いが、包装作業が必要なレタスに特化できなかった。そこで、ブロッコリーを拡大し、作業を効率化した。</p>
<p>農業をめざした動機</p>	<p>後輩へ贈る言葉</p>
<p>民間企業に勤務していたが、妻が南あわじ市出身で、実家を訪れる度に、淡路島に魅力を感じ、島内で営農したいと考えるようになった。南あわじ市役所や南淡路農業改良普及センターに就農相談し、南あわじ市内の親方農家で研修を受講して農業技術を学んだ後に就農した。</p>	<p>自分の利益だけではなく、地域の人とのつながりを持ち、地域活動にも積極的に参加して、地域に貢献することが大切である。</p> <p>特に、就農1年目は収入が少ない。私の場合は妻の固定収入があったので、生活は安定したように思います。</p>